



法人企業景気予測調査

(令和3年7～9月期調査)

新潟県分

令和3年9月13日

財務省関東財務局
新潟財務事務所

目 次

調査要領等	1
概 況	2
1. 企業の景況	3
2. 企業収益・設備投資	6
3. 雇 用	7
4. 国内の景況	8
5. 設 備 判 断	9
6. 設備投資の対象	10
7. 大規模災害や感染症等による 事業中断リスクに備えた取組	11
<参考資料>企業収益の全業種集計	12

《調査要領等》

1. 調査時点	令和3年8月15日
2. 調査の対象期間	
(1) 判断項目	令和3年7～9月（又は9月末）は現状判断 令和3年10～12月（又は12月末）、 令和4年1～3月（又は3月末）は見通し判断
(2) 計数項目	令和3年度は実績見込み
3. 調査対象の範囲及び選定方法	
	新潟県に所在する資本金、出資金又は基金（以下、資本金という。）1千万円以上※の法人で法人企業統計四半期別調査の対象法人などから一定の方法により選定。なお、資本金30億円以上の法人については全数を選定。 ※「電気・ガス・水道業」及び「金融業、保険業」は資本金1億円以上の法人から選定。
4. 調査の方法	調査票による郵送またはオンライン調査（自計記入による）
5. 集計の方法	法人企業統計の業種分類による単純集計

《調査対象法人・回収率》

	規模別			業種別		合計
	大企業	中堅企業	中小企業	製造業	非製造業	
対象法人数	41	48	124	64	149	213
回答法人数	38	45	101	53	131	184
ウェイト(%)	20.7	24.5	54.9	28.8	71.2	100.0
回収率(%)	92.7	93.8	81.5	82.8	87.9	86.4

(注) 1. 大企業：資本金10億円以上

中堅企業：資本金1億円以上10億円未満

中小企業：資本金1千万円以上1億円未満

2. 表中のウェイトは、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100%にならない場合がある。

(参考)

B S I（ビジネス・サーベイ・インデックス）の読み方

(例) 「企業の景況」の場合

前期と比べて

「上昇」と回答した法人の構成比・・・40.0%

「不変」と回答した法人の構成比・・・25.0%

「下降」と回答した法人の構成比・・・30.0%

「不明」と回答した法人の構成比・・・5.0%

B S I = (「上昇」と回答した法人の構成比・・・40.0%)

－ (「下降」と回答した法人の構成比・・・30.0%) = 10.0%ポイント

概 況

(1) 企業の景況

現状判断は、「下降」超幅が縮小

(2) 売上高(除く「電気・ガス・水道業」、「金融業、保険業」)

3年度は、減収見込み

(3) 経常利益(除く「電気・ガス・水道業」、「金融業、保険業」)

3年度は、減益見込み

(4) 設備投資(除く土地購入額、含むソフトウェア投資額)

3年度は、増加見込み

(5) 雇 用

現状判断は、「不足気味」超幅が拡大

(6) 国内の景況

現状判断は、「下降」超幅が縮小

(7) 設備判断

現状判断は、「不足」超幅が拡大

※いずれも全規模・全産業ベース

1. 企業の景況

－ 現状判断は、「下降」超幅が縮小 －

3年7～9月期の企業の景況判断BSIをみると、全規模・全産業ベースで「下降」超幅が縮小している。

これを規模別にみると、大企業は「下降」超幅が拡大し、中堅企業は「上昇」超に転じ、中小企業は「下降」超幅が縮小している。

また、業種別にみると、製造業は「上昇」超に転じ、非製造業は「下降」超幅が縮小している。

先行きについては、大企業は10～12月期に均衡となるものの、1～3月期に再び「下降」超に転じる見通し、中堅企業は10～12月期に「下降」超に転じるものの、1～3月期に再び「上昇」超に転じる見通し、中小企業は10～12月期に「上昇」超に転じるものの、1～3月期に再び「下降」超に転じる見通しとなっている。

《表1》企業の景況判断BSI

(前期比「上昇」-「下降」社数構成比)

(単位:%ポイント)

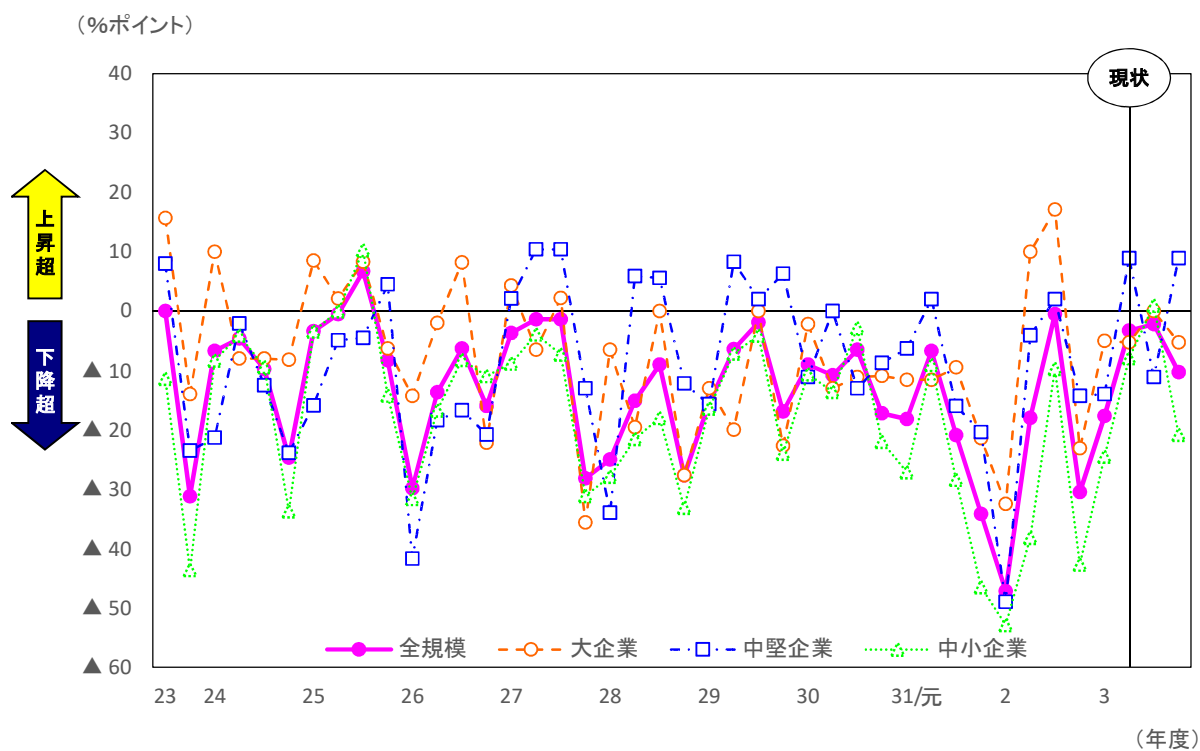
	3年4～6月	3年7～9月	3年10～12月	4年1～3月
全規模・全産業	(▲17.7)	▲3.3 (▲5.5)	▲2.2 (▲1.1)	▲10.3
大企業	(▲5.0)	▲5.3 (5.0)	0.0 (2.5)	▲5.3
中堅企業	(▲14.0)	8.9 (2.3)	▲11.1 (9.3)	8.9
中小企業	(▲24.5)	▲7.9 (▲13.3)	1.0 (▲7.1)	▲20.8
製造業	(▲15.1)	7.5 (▲3.8)	20.8 (15.1)	▲9.4
非製造業	(▲18.8)	▲7.6 (▲6.3)	▲11.5 (▲7.8)	▲10.7

(注) () 書は前回(3年4～6月期)調査結果。

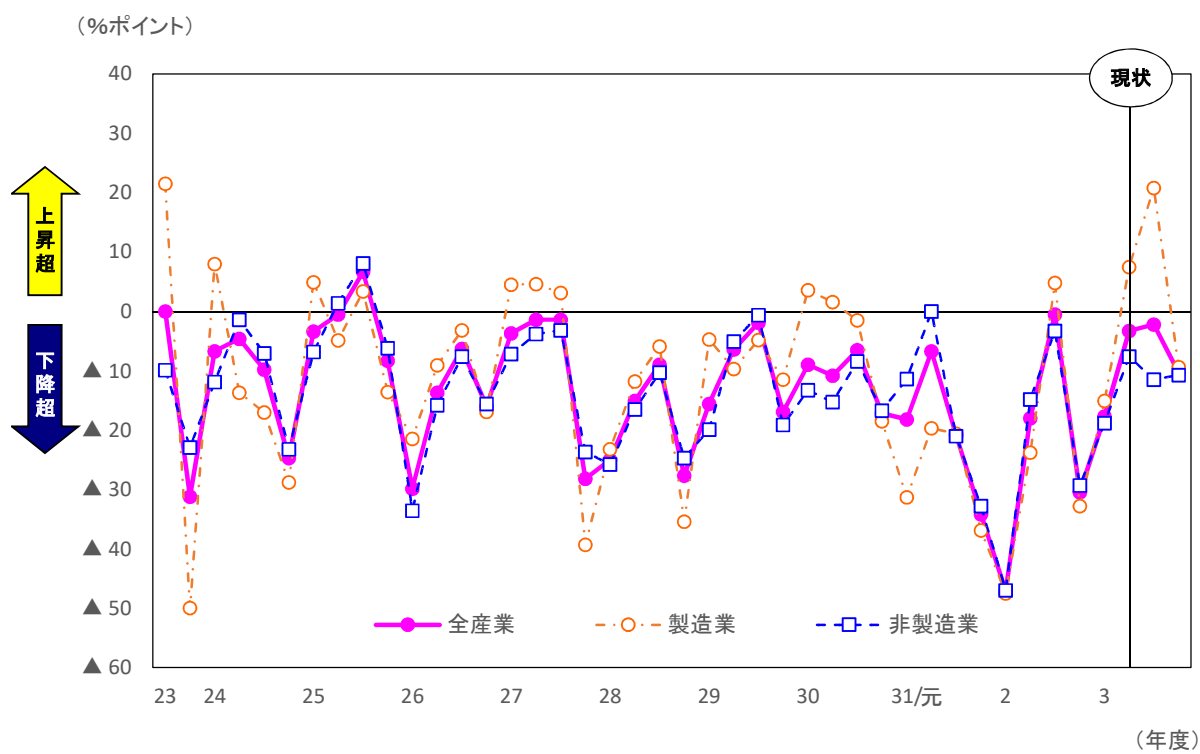
(参考) 寄与の大きい業種

		業 種 名
製 造 業	上 昇	生産用機械器具製造業
		鉄鋼業
	下 降	食料品製造業
		繊維工業
非 製 造 業	上 昇	運輸業、郵便業
		宿泊業、飲食サービス業
	下 降	建設業
		卸売業

【図1】規模別企業の景況判断BSIの推移



【図2】業種別企業の景況判断BSIの推移



《表2》企業の景況判断の決定要因

(回答社数構成比:%)

		全規模・全産業			製 造 業			非 製 造 業		
		7~9月	10~12月	1~3月	7~9月	10~12月	1~3月	7~9月	10~12月	1~3月
上	①国内需要(売上)	93.3	88.5	91.7	92.9	85.7	75.0	93.8	91.7	100.0
	②海外需要(売上)	16.7	11.5	8.3	28.6	14.3	25.0	6.3	8.3	0.0
	③販売価格	33.3	42.3	41.7	14.3	42.9	25.0	50.0	41.7	50.0
	④仕入価格	20.0	50.0	25.0	21.4	50.0	50.0	18.8	50.0	12.5
	⑤仕入以外のコスト	23.3	26.9	16.7	21.4	28.6	25.0	25.0	25.0	12.5
	⑥資金繰り・資金調達	16.7	3.8	8.3	7.1	0.0	0.0	25.0	8.3	12.5
	⑦株式・不動産等の資産価格	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	⑧為替レート	0.0	3.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0
	⑨税制・会計制度等	0.0	3.8	0.0	0.0	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0
	⑩その他	13.3	7.7	0.0	14.3	0.0	0.0	12.5	16.7	0.0
下	①国内需要(売上)	93.9	88.9	93.9	100.0	100.0	100.0	91.3	87.5	91.7
	②海外需要(売上)	6.1	3.7	9.1	10.0	0.0	22.2	4.3	4.2	4.2
	③販売価格	39.4	40.7	30.3	40.0	33.3	33.3	39.1	41.7	29.2
	④仕入価格	30.3	25.9	45.5	40.0	66.7	77.8	26.1	20.8	33.3
	⑤仕入以外のコスト	24.2	29.6	30.3	20.0	0.0	22.2	26.1	33.3	33.3
	⑥資金繰り・資金調達	27.3	29.6	15.2	20.0	0.0	0.0	30.4	33.3	20.8
	⑦株式・不動産等の資産価格	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	⑧為替レート	0.0	0.0	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.2
	⑨税制・会計制度等	3.0	3.7	6.1	0.0	0.0	0.0	4.3	4.2	8.3
	⑩その他	27.3	14.8	15.2	10.0	0.0	0.0	34.8	16.7	20.8

		大 企 業			中 堅 企 業			中 小 企 業		
		7~9月	10~12月	1~3月	7~9月	10~12月	1~3月	7~9月	10~12月	1~3月
上	①国内需要(売上)	100.0	100.0	100.0	100.0	66.7	100.0	89.5	90.0	83.3
	②海外需要(売上)	33.3	0.0	0.0	25.0	66.7	20.0	10.5	5.0	0.0
	③販売価格	33.3	66.7	0.0	50.0	66.7	80.0	26.3	35.0	16.7
	④仕入価格	0.0	66.7	0.0	12.5	33.3	40.0	26.3	50.0	16.7
	⑤仕入以外のコスト	0.0	0.0	0.0	25.0	33.3	0.0	26.3	30.0	33.3
	⑥資金繰り・資金調達	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	20.0	15.8	5.0	0.0
	⑦株式・不動産等の資産価格	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	⑧為替レート	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0	0.0
	⑨税制・会計制度等	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0	0.0
	⑩その他	66.7	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	5.3	10.0	0.0
下	①国内需要(売上)	100.0	100.0	100.0	75.0	71.4	66.7	96.3	94.7	96.3
	②海外需要(売上)	0.0	0.0	33.3	0.0	14.3	0.0	7.4	0.0	7.4
	③販売価格	100.0	100.0	33.3	50.0	71.4	66.7	33.3	26.3	25.9
	④仕入価格	100.0	0.0	66.7	50.0	28.6	33.3	22.2	26.3	44.4
	⑤仕入以外のコスト	0.0	0.0	0.0	25.0	28.6	33.3	25.9	31.6	33.3
	⑥資金繰り・資金調達	0.0	0.0	0.0	50.0	57.1	66.7	25.9	21.1	11.1
	⑦株式・不動産等の資産価格	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	⑧為替レート	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.7
	⑨税制・会計制度等	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.7	5.3	7.4
	⑩その他	0.0	100.0	0.0	25.0	14.3	33.3	29.6	10.5	14.8

(注) 1. 「金融業、保険業」は調査対象外。
 2. 10項目中3項目以内の複数回答による回答社数構成比。

2. 企業収益・設備投資

(1) 企業収益（除く「電気・ガス・水道業」、「金融業、保険業」）

－ 3年度は、減収減益見込み －

3年度の「売上高」は、全規模ベースで前年比3.0%の減収見込み、「経常利益」は、同7.8%の減益見込みとなっている。

「売上高」を規模別にみると、大企業は同4.8%の減収見込み、中堅企業は同4.7%、中小企業は同0.4%の増収見込みとなっている。業種別にみると、製造業は同4.7%、非製造業は同1.5%の減収見込みとなっている。

「経常利益」を規模別にみると、大企業は同8.7%、中堅企業は同6.3%の減益見込み、中小企業は同35.7%の増益見込みとなっている。業種別にみると、製造業は同3.2%の増益見込み、非製造業は同15.6%の減益見込みとなっている。

(2) 設備投資（除く土地購入額、含むソフトウェア投資額）

－ 3年度は、増加見込み －

3年度の「設備投資」は、全規模・全産業ベースで前年比0.0%の増加見込みとなっている。

これを規模別にみると、大企業は同2.9%の増加見込み、中堅企業は同15.8%、中小企業は同31.3%の減少見込みとなっている。業種別にみると、製造業は同24.2%の増加見込み、非製造業は同20.5%の減少見込みとなっている。

《表3》企業収益・設備投資（3年度）

（前年比増減率：%）

	売上高	経常利益		設備投資
		（受取配当金を除く）		
全規模・全産業	▲ 3.0 (▲ 3.5)	▲ 7.8 (▲ 6.0)	▲ 7.9 (▲ 5.7)	0.0 (8.2)
大企業	▲ 4.8 (▲ 5.3)	▲ 8.7 (▲ 5.3)	▲ 8.9 (▲ 4.9)	2.9 (7.8)
中堅企業	4.7 (4.0)	▲ 6.3 (▲ 16.7)	▲ 7.4 (▲ 17.0)	▲ 15.8 (15.4)
中小企業	0.4 (0.8)	35.7 (33.8)	40.7 (39.0)	▲ 31.3 (▲ 25.4)
製造業	▲ 4.7 (▲ 6.1)	3.2 (10.0)	1.9 (10.1)	24.2 (35.5)
非製造業	▲ 1.5 (▲ 1.3)	▲ 15.6 (▲ 16.5)	▲ 14.7 (▲ 15.5)	▲ 20.5 (▲ 14.1)

- (注) 1. () 書は前回(3年4~6月期)調査結果。
 2. 全業種の集計結果については、12ページを参照。
 3. 「金融業、保険業」の売上高は調査対象外。

3. 雇 用

－ 現状判断は、「不足気味」超幅が拡大 －

3年9月末時点の従業員数判断BSIをみると、全規模・全産業ベースで「不足気味」超幅が拡大している。

これを規模別にみると、大企業は「過剰気味」超幅が縮小し、中堅企業、中小企業は「不足気味」超幅が拡大している。

また、業種別にみると、製造業は「過剰気味」超から均衡となり、非製造業は「不足気味」超幅が縮小している。

先行きについては、大企業は12月末に「不足気味」超に転じるものの、3月末に均衡となる見通し、中堅企業、中小企業は「不足気味」超で推移する見通しとなっている。

《表4》従業員数判断BSI

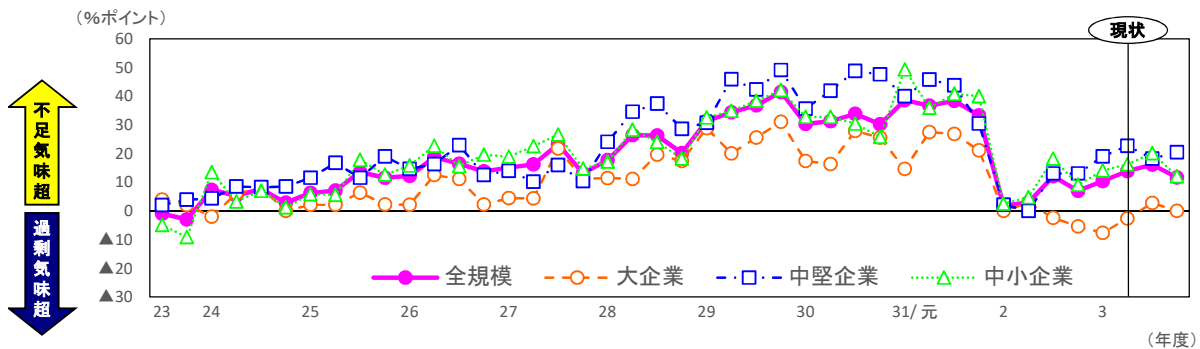
(期末判断「不足気味」－「過剰気味」社数構成比)

(単位:%ポイント)

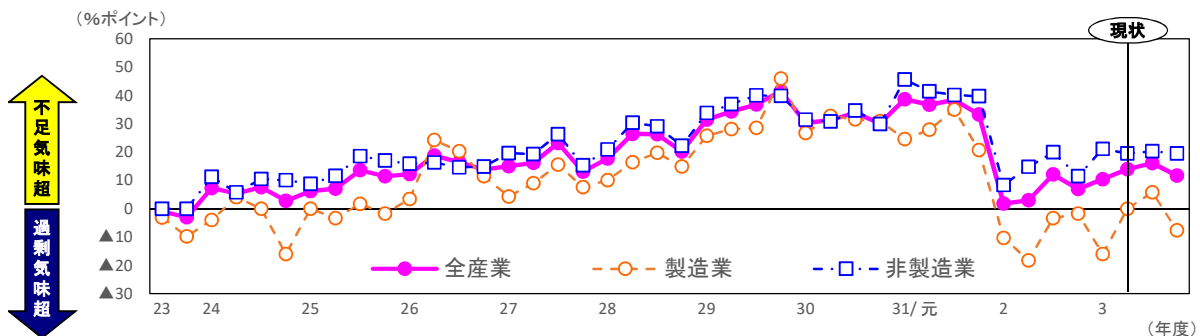
	3年6月末	3年9月末	3年12月末	4年3月末
全規模・全産業	(10.4)	13.9 (11.0)	16.1 (12.7)	11.7
大企業	(▲7.7)	▲2.7 (0.0)	2.7 (0.0)	0.0
中堅企業	(19.0)	22.7 (19.0)	18.2 (9.5)	20.5
中小企業	(14.1)	16.2 (12.0)	20.2 (19.6)	12.1
製造業	(▲16.0)	0.0 (▲8.0)	5.8 (▲4.0)	▲7.7
非製造業	(21.1)	19.5 (18.7)	20.3 (19.5)	19.5

(注) () 書は前回(3年4～6月期)調査結果。

【図3】規模別従業員数判断BSIの推移



【図4】業種別従業員数判断BSIの推移



4. 国内の景況

－ 現状判断は、「下降」超幅が縮小 －

3年7～9月期の国内の景況判断BSIをみると、全規模・全産業ベースで「下降」超幅が縮小している。

これを規模別にみると、大企業、中堅企業、中小企業いずれも「下降」超幅が縮小している。

また、業種別にみると、製造業、非製造業とも「下降」超幅が縮小している。

先行きについては、大企業は10～12月期に「上昇」超に転じる見通し、中堅企業は1～3月期に「上昇」超に転じる見通し、中小企業は「下降」超で推移する見通しとなっている。

《表5》国内の景況判断BSI

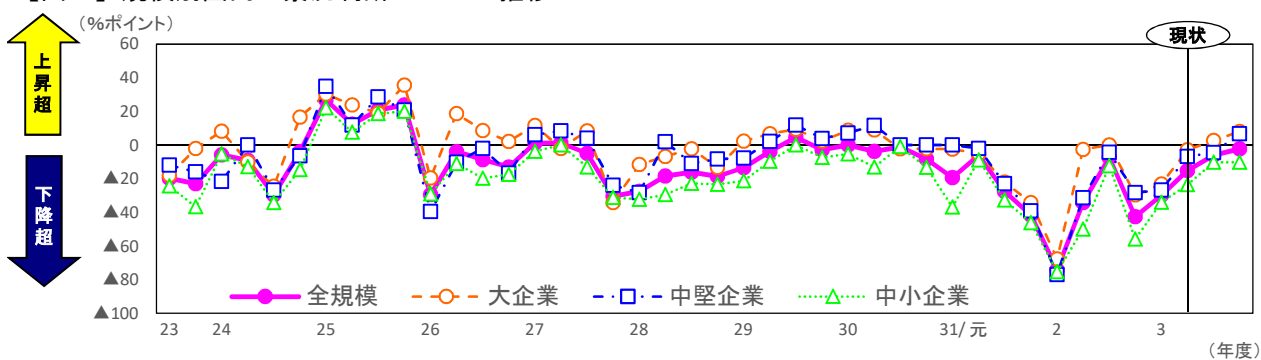
(前期比「上昇」-「下降」社数構成比)

(単位:%ポイント)

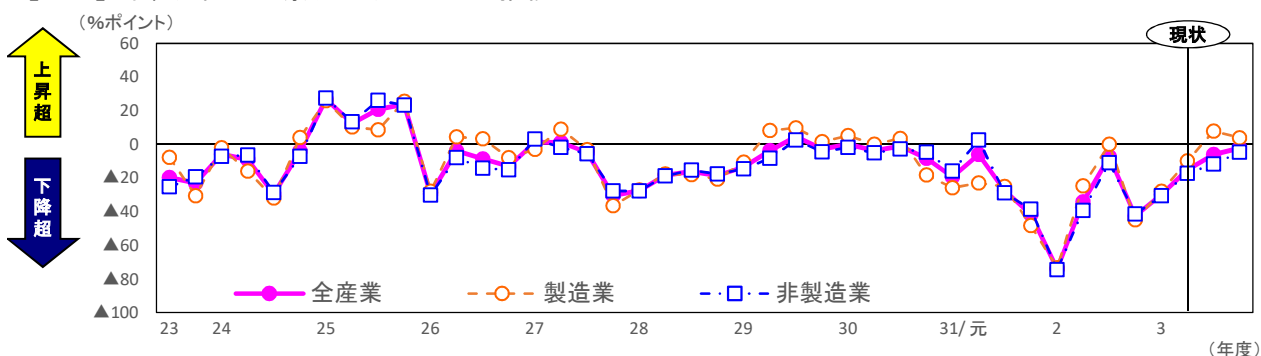
	3年4～6月	3年7～9月	3年10～12月	4年1～3月
全規模・全産業	(▲29.9)	▲15.1 (▲7.5)	▲6.1 (▲2.9)	▲2.2
大企業	(▲23.1)	▲2.7 (0.0)	2.7 (▲2.6)	8.1
中堅企業	(▲26.8)	▲6.8 (7.3)	▲4.5 (9.8)	6.8
中小企業	(▲34.0)	▲23.5 (▲17.0)	▲10.2 (▲8.5)	▲10.2
製造業	(▲28.0)	▲9.8 (4.0)	7.8 (16.0)	3.9
非製造業	(▲30.6)	▲17.2 (▲12.1)	▲11.7 (▲10.5)	▲4.7

(注) () 書は前回(3年4～6月期)調査結果。

【図5】規模別国内の景況判断BSIの推移



【図6】業種別国内の景況判断BSIの推移



5. 設備判断

－ 現状判断は、「不足」超幅が拡大 －

3年9月末時点の設備判断BSIをみると、全規模・全産業ベースで「不足」超幅が拡大している。

これを規模別にみると、大企業は「過大」超幅が拡大し、中堅企業は「不足」超に転じ、中小企業は「不足」超幅が拡大している。

また、業種別にみると、製造業は「不足」超に転じ、非製造業は「不足」超幅が拡大している。

先行きについては、大企業は「過大」超で推移する見通し、中堅企業、中小企業は「不足」超で推移する見通しとなっている。

《表6》設備判断BSI

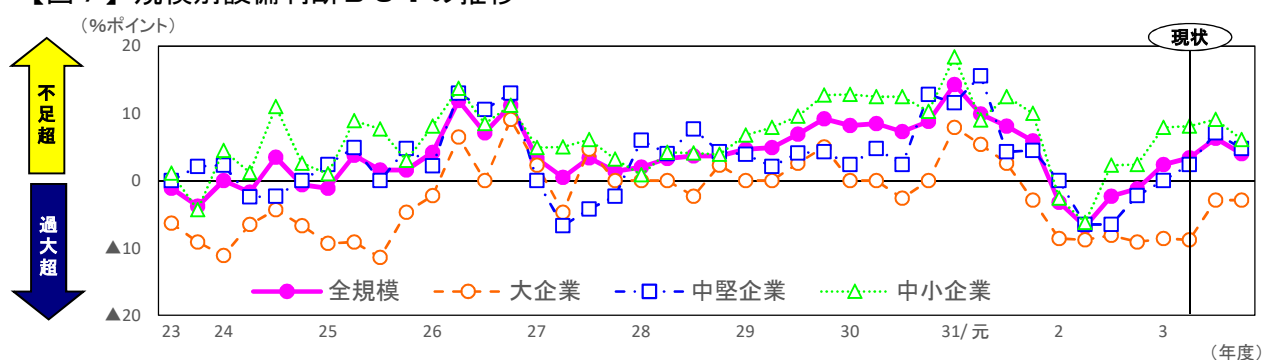
(期末判断「不足」-「過大」社数構成比)

(単位:%ポイント)

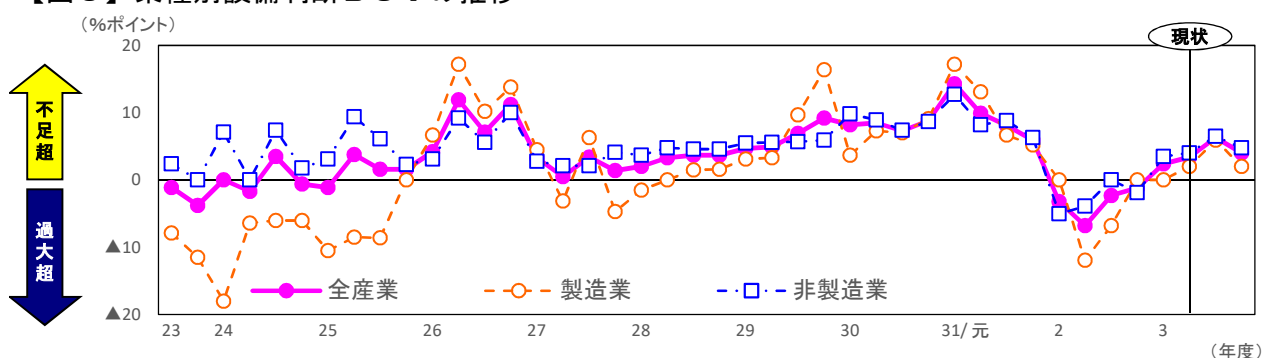
	3年6月末	3年9月末	3年12月末	4年3月末
全規模・全産業	(2.4)	3.4 (6.1)	6.3 (6.7)	4.0
大企業	(▲8.6)	▲8.8 (0.0)	▲2.9 (0.0)	▲2.9
中堅企業	(0.0)	2.4 (10.0)	7.1 (7.5)	4.8
中小企業	(7.9)	8.1 (6.7)	9.1 (9.0)	6.1
製造業	(0.0)	2.0 (6.1)	5.9 (10.2)	2.0
非製造業	(3.5)	4.0 (6.1)	6.5 (5.2)	4.8

(注) () 書は前回(3年4~6月期)調査結果。

【図7】規模別設備判断BSIの推移



【図8】業種別設備判断BSIの推移



6. 設備投資の対象

今年度における「設備投資の対象」を全規模・全産業ベースでみると、回答の多い順に「生産・販売等の機械及び装置（⑤を除く）」、「工具、器具及び備品」、「情報機器」となっている。

これを規模別にみると、大企業、中小企業は「生産・販売等の機械及び装置（⑤を除く）」、中堅企業は「情報機器」をあげる企業が最も多い。

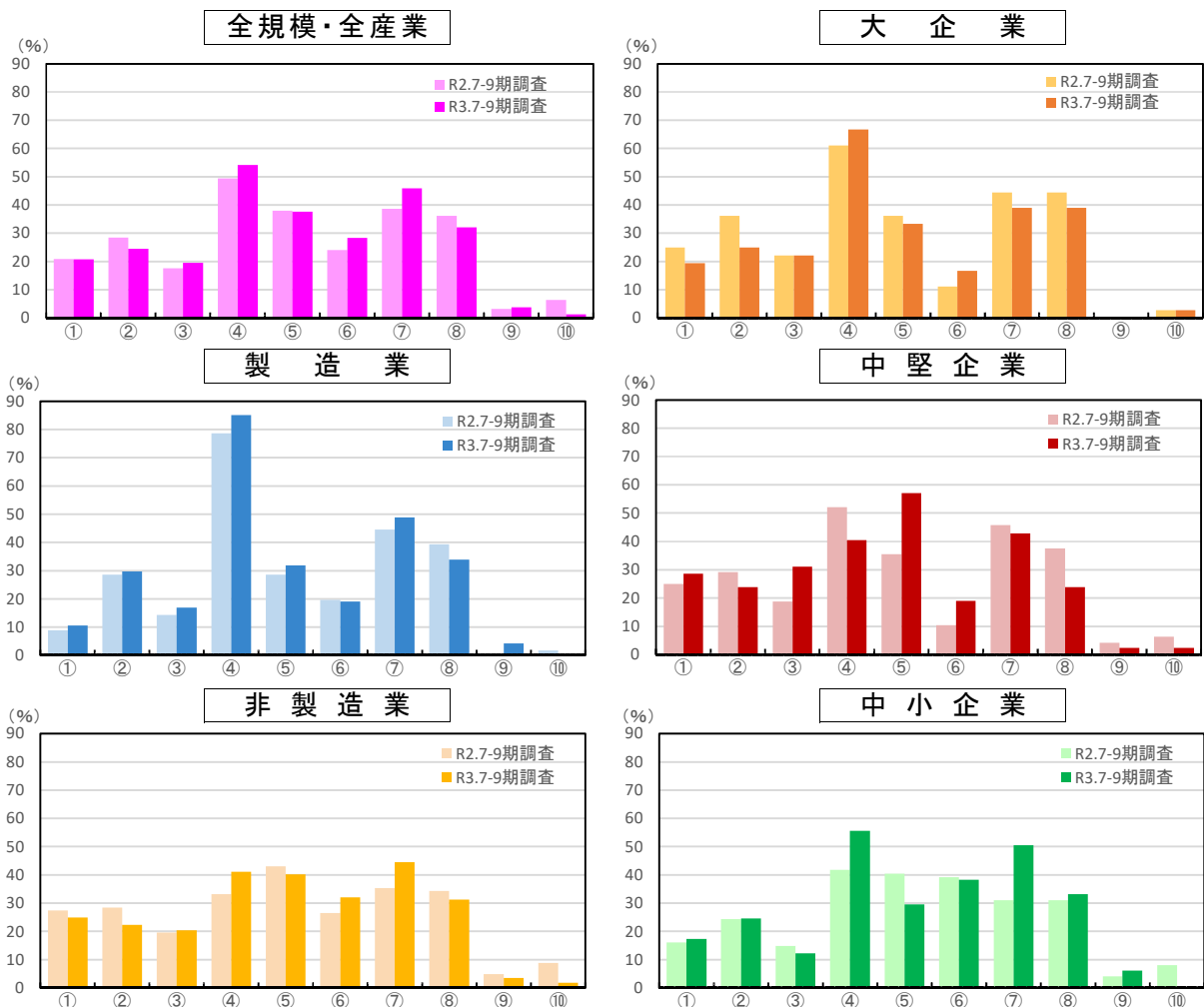
また、業種別にみると、製造業は「生産・販売等の機械及び装置（⑤を除く）」、非製造業は「工具、器具及び備品」をあげる企業が最も多い。

《表7》設備投資の対象（1社3項目以内の複数回答）

(回答社数構成比:%)

	① 建物(本社・支社等の内部管理用)	② 建物(工場・店舗等の生産・販売等用)	③ 建物以外の構造物・構築物	④ 生産・販売等の機械及び装置(⑤を除く)	⑤ 情報機器	⑥ 車両、船舶及び航空機等	⑦ 工具、器具及び備品	⑧ ソフトウェア	⑨ 土地	⑩ その他
全規模・全産業	20.8	24.5	19.5	54.1	37.7	28.3	45.9	32.1	3.8	1.3
大企業	19.4	25.0	22.2	66.7	33.3	16.7	38.9	38.9	0.0	2.8
中堅企業	28.6	23.8	31.0	40.5	57.1	19.0	42.9	23.8	2.4	2.4
中小企業	17.3	24.7	12.3	55.6	29.6	38.3	50.6	33.3	6.2	0.0
製造業	10.6	29.8	17.0	85.1	31.9	19.1	48.9	34.0	4.3	0.0
非製造業	25.0	22.3	20.5	41.1	40.2	32.1	44.6	31.3	3.6	1.8

【図9】設備投資の対象



7. 大規模災害や感染症等による事業中断リスクに備えた取組

「大規模災害や感染症等による事業中断リスクに備えた取組」を全規模・全産業ベースでみると、回答の多い順に「設備や情報システムへの投資」、「Web会議やテレワーク等の導入・拡充」、「資金調達手段の確保、災害保険への加入」となっている。

これを規模別にみると、大企業は「設備や情報システムへの投資」及び「Web会議やテレワーク等の導入・拡充」、中堅企業は「Web会議やテレワーク等の導入・拡充」、中小企業は「資金調達手段の確保、災害保険への加入」をあげる企業が最も多い。

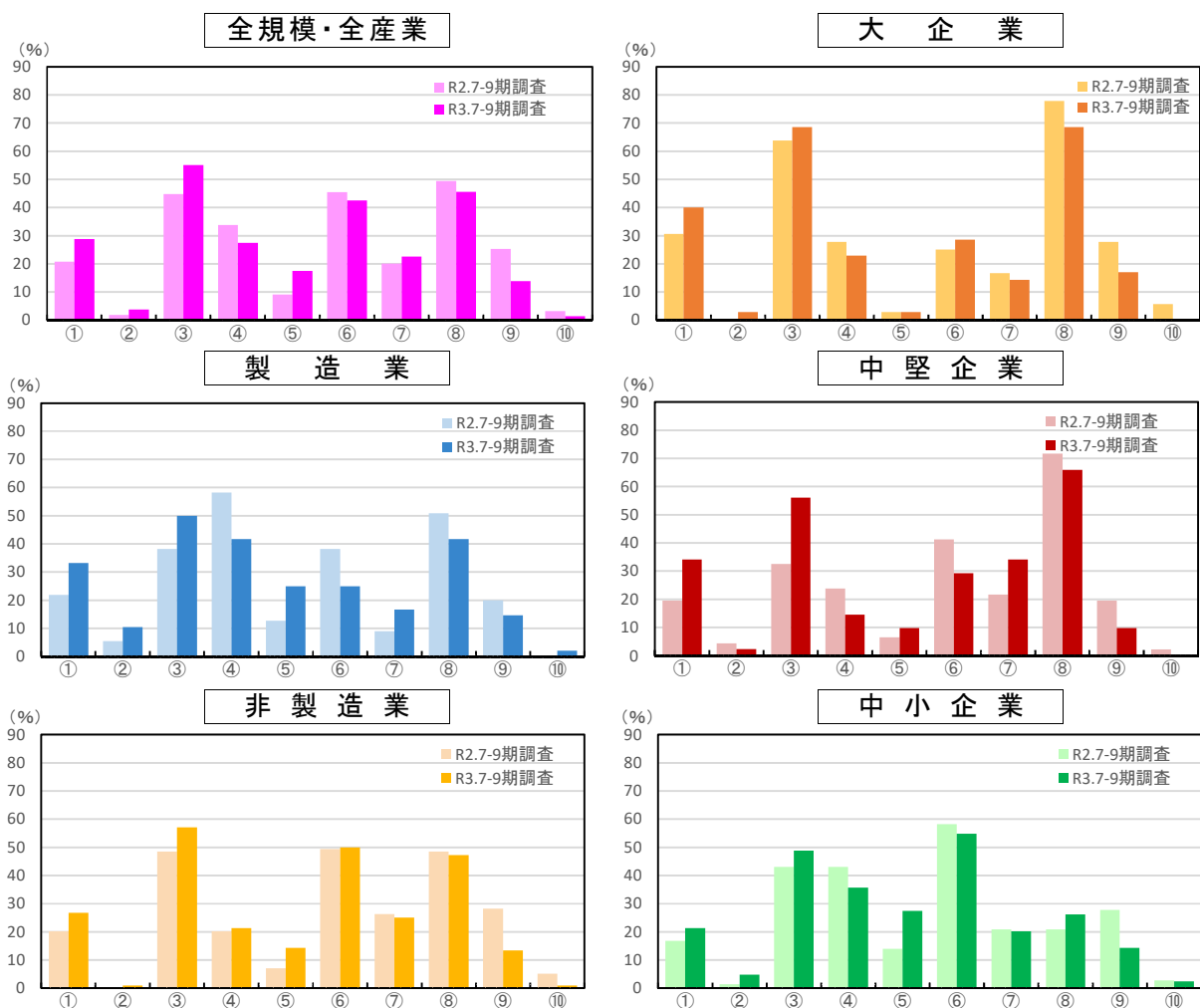
また、業種別にみると、製造業、非製造業とも「設備や情報システムへの投資」をあげる企業が最も多い。

《表8》大規模災害や感染症等による事業中断リスクに備えた取組（1社3項目以内の複数回答）

（回答社数構成比：%）

	① 国内拠点の強化	② 海外拠点の強化	③ 設備や情報システムへの投資	④ 原材料や商品等の調達先の多様化	⑤ 適正な在庫水準の引上げ	⑥ 資金調達手段の確保、災害保険への加入	⑦ 遠隔サービスの拡充等の顧客対応手段の多様化	⑧ Web会議やテレワーク等の導入・拡充	⑨ フレックスタイム制等の勤務体制の見直し	⑩ その他
全規模・全産業	28.8	3.8	55.0	27.5	17.5	42.5	22.5	45.6	13.8	1.3
大企業	40.0	2.9	68.6	22.9	2.9	28.6	14.3	68.6	17.1	0.0
中堅企業	34.1	2.4	56.1	14.6	9.8	29.3	34.1	65.9	9.8	0.0
中小企業	21.4	4.8	48.8	35.7	27.4	54.8	20.2	26.2	14.3	2.4
製造業	33.3	10.4	50.0	41.7	25.0	25.0	16.7	41.7	14.6	2.1
非製造業	26.8	0.9	57.1	21.4	14.3	50.0	25.0	47.3	13.4	0.9

【図10】大規模災害や感染症等による事業中断リスクに備えた取組



<参考資料> 企業収益の全業種集計

《表9》 企業収益（全業種、3年度）

売上高:含む「電気・ガス・水道業」、除く「金融業、保険業」

経常利益:含む「電気・ガス・水道業」、「金融業、保険業」

(前年比増減率:%)

	売上高	経常利益	
		(受取配当金を除く)	
全規模・全産業	▲ 3.0 (▲ 3.4)	▲ 8.2 (▲ 6.5)	▲ 8.6 (▲ 6.4)
大企業	▲ 4.7 (▲ 5.2)	▲ 10.7 (▲ 7.8)	▲ 11.4 (▲ 7.9)
中堅企業	4.7 (4.0)	6.3 (▲ 1.9)	6.8 (▲ 1.2)
中小企業	0.4 (0.8)	35.7 (33.8)	40.7 (39.0)
製造業	▲ 4.7 (▲ 6.1)	3.2 (10.0)	1.9 (10.1)
非製造業	▲ 1.5 (▲ 1.3)	▲ 14.8 (▲ 15.3)	▲ 14.6 (▲ 15.0)

- (注) 1. () 書は前回(3年4~6月期)調査結果。
 2. 「金融業、保険業」の売上高は調査対象外。